

豊田PCB廃棄物処理事業の状況報告について

1 豊田PCB廃棄物処理事業の処理実績

(1) 豊田PCB廃棄物処理施設での処理実績

(表－1) PCB廃棄物の処理量（中間処理完了ベース）

令和4年8月末現在

	(注1) 変圧器類（台）				(注2) コンデンサー類（台）				(注3) 廃PCB（本）	保管容器（箱）	純PCB処理量（トン）
	大型	小型	車載	合計	健全品	処理手間物	小型機器（10kg未満）	合計			
H17年度合計（試運転物含む）	8	33	8	49	1,185	0	0	1,185	33	0	31.8
H18年度合計	19	55	3	77	1,592	13	0	1,605	1	0	63.7
H19年度合計	26	146	19	191	2,227	62	0	2,289	15	0	115.9
H20年度合計	36	242	26	304	3,743	93	0	3,836	30	0	186.4
H21年度合計	40	221	25	286	4,616	137	0	4,753	47	2	199.4
H22年度合計	33	135	19	187	3,528	242	0	3,770	56	10	163.1
H23年度合計	33	85	24	142	3,658	252	0	3,910	28	10	144.4
H24年度合計	40	147	33	220	4,923	203	0	5,126	64	17	217.9
H25年度合計	52	100	49	201	5,778	127	66	5,971	123	23	207.5
H26年度合計	41	50	57	148	4,798	1,031	44	5,873	22	197	213.2
H27年度合計	26	17	61	104	4,405	1,292	487	6,184	27	381	190.6
H28年度合計	27	17	58	102	4,392	825	2,103	7,320	93	396	165.5
H29年度合計	14	17	65	96	3,846	1,096	3,462	8,404	99	450	171.2
H30年度合計	15	29	64	108	2,271	601	4,073	6,945	323	432	112.7
R元年度合計	49	40	61	150	1,344	395	4,084	5,823	300	603	96.2
R2年度合計	2	29	57	88	1,141	94	1,486	2,721	371	363	83.5
R3年度合計	4	14	13	31	1,061	166	865	2,092	426	267	46.4
R4年4月	0	1	0	1	124	8	126	258	22	8	4.2
R4年5月	0	0	0	0	26	0	2	28	11	0	0.3
R4年6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
R4年7月	0	2	0	2	88	7	26	121	23	11	2.7
R4年8月	0	0	0	0	85	12	56	153	29	10	4.5
R4年9月											
R4年10月											
R4年11月											
R4年12月											
R5年1月											
R5年2月											
R5年3月											
R4年度合計	0	3	0	3	323	27	210	560	85	29	11.7
合計	465	1,380	(注4) 642	2,487	(※1) 54,831	(※1) 6,656	16,880	(注4) 78,367	2,143	(注4) 3,180	2,421.1

(注1)：変圧器類とは、変圧器、変流器、リアクトル等を含む。大型変圧器とは重量が1.62 tを超えるもの又は小型トランス解体ラインでは処理できないもの。

(注2)：健全品コンデンサーは連結コンデンサー、サージアブソーバーを含む。処理手間物は、寸法外・海外製・漏洩品のコンデンサー。

(※1) 大阪事業エリアのPPコンデンサー5,009台（健全品4,587台、処理手間物422台）を含む。

(注3)：廃PCBとはドラム缶、ペール缶や試薬ビンに入った廃PCB油

(注4)：他事業所に搬出し処理した車載変圧器158台、炭化コンデンサー125台とその保管容器79箱は除く。

(2). PCB廃棄物の受入状況（令和4年8月末現在）

豊田PCB処理事業所の操業開始後、令和4年8月末までのPCB廃棄物の受入実績（試運転含む）は、変圧器類2,460台、コンデンサー類80,893台（PPコンデンサー5,009台含む。）、廃PCB油が2,484本、保管容器3,180箱です。

（表－2）PCB廃棄物の受入状況（搬入ベース）

	変圧器類(台)			コンデン サー類(台)	廃PCB		保管容器(箱)
	大型	小型	車載		(本)	(kg)	
試運転時 H17年6～8月	1台	5台	8台	588台	33本	7,330kg	—
操業時 H17年9月～							
H17年度合計	11台	42台	—	1,156台	—	—	—
H18年度合計	16台	52台	3台	1,192台	1本	300.0kg	—
H19年度合計	27台	147台	21台	2,449台	30本	8,407.5kg	—
H20年度合計	36台	235台	24台	3,834台	15本	2,703.6kg	—
H21年度合計	40台※①	227台	26台	5,184台	47本	13,321.1kg	2箱
H22年度合計	34台	128台	22台	3,903台	63本	15,402.0kg	10箱
H23年度合計	31台※②	87台	21台	3,657台	33本	9,308.0kg	10箱
H24年度合計	40台※③	156台	34台	5,676台	95本	27,996.7kg	17箱
H25年度合計	43台※④	89台	50台	6,191台	216本	59,601.5kg	23箱
H26年度合計	43台※⑤	53台	60台	6,459台	95本	25,136.5kg	210箱
H27年度合計	28台	19台	60台	7,161台	27本	313.0kg	368箱
H28年度合計	24台	12台	60台	8,076台	105本	5,939.2kg	401箱
H29年度合計	11台※⑥	21台	62台	8,388台	170本	2,287.1kg	456箱
H30年度合計	17台※⑦	47台	64台	6,529台	301本	18,627.4kg	439箱
R元年度合計	15台※⑧	35台	64台	5,377台	298本	39,698.7kg	588箱
R2年度合計	1台	26台※⑨	56台※⑨	2,718台	405本	47,073.1kg	361箱
R3年度合計	2台	15台※⑩	7台※⑩	2,003台	486本	21,695.8kg	269箱
R4年4月	0台	2台	0台	124台	14本	0.4kg	5箱
R4年5月	0台	0台	0台	79台	12本	0.3kg	6箱
R4年6月	0台	0台	0台	32台	8本	0.2kg	3箱
R4年7月	0台	0台	0台	67台	22本	19.3kg	4箱
R4年8月	0台	0台	0台	50台	8本	0.2kg	8箱
R4年9月							
R4年10月							
R4年11月							
R4年12月		R4年9月～R5年3月の処理計画は別紙1のとおり					
R5年1月							
R5年2月							
R5年3月							
R4年度合計	0台	2台	0台	352台	64本	20.3kg	26箱
操業期間合計	419台	1,393台	634台	80,305台	2,451本	297,831.6kg	3,180箱
試運転含む全受入量	420台	1,398台	642台	80,893台	2,484本	305,161.6kg	3,180箱

※①平成21年度：変圧器解体部品、愛知県内1個は含みません。
※②平成23年度：変圧器解体部品、静岡県内6個は含みません。
※③平成24年度：変圧器解体部品、名古屋市内5個、静岡県内6個、三重県内11個は含みません。
※④平成25年度：変圧器解体部品、浜松市内8個、静岡県内10個、名古屋市内21個は含みません。
※⑤平成26年度：変圧器解体部品、愛知県内15個、静岡県内10個、岐阜県内9個、名古屋市内3個は含みません。
※⑥平成29年度：変圧器解体部品、静岡市内2個、浜松市内5個は含みません。
※⑦平成30年度：変圧器解体部品、浜松市内2個は含みません。
※⑧令和元年度：変圧器解体部品、名古屋市内33個、岐阜県内6個、浜松市内1個は含みません。
※⑨令和2年度：変圧器解体部品、愛知県内5個、浜松市内2個は含みません。
※⑩令和3年度：変圧器解体部品、愛知県内12個、浜松市内48個は含みません。

参考: 令和4年度末までのPCB廃棄物の受入計画(搬入ベース)

	変圧器類(台)	コンデン サー類(台)	廃PCB		保管容器(箱)
			(本)	(kg)	
R4年9月計画	0台	37台	16本	232.0kg	3箱
R4年10月計画	1台	33台	16本	232.0kg	1箱
R4年11月計画	0台	0台	0本	0.0kg	0箱
R4年12月計画	0台	0台	0本	0.0kg	0箱
R5年1月計画	0台	55台	16本	233.0kg	3箱
R5年2月計画	0台	55台	16本	233.0kg	3箱
R5年3月計画	0台	55台	17本	233.0kg	3箱
R4年度計画 小計	1台	235台	81本	1,163.0kg	13箱
R4年度合計(見込)	3台	587台	145本	1,183.3kg	39箱
操業期間合計(見込)	2,447台	80,540台	2,532本	298,994.6kg	3,193箱
試運転含む全受入量(見込)	2,461台	81,128台	2,565本	306,324.6kg	3,193箱

(3). PCB処理事業区域(東海4県8市)の受入進捗状況

(表一3)届出区域別 登録状況 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。)

※令和4年8月末現在

区域名称	保管者数	事業場数	変圧器台数	コンデンサー台数	廃PCB		保管容器
豊田市	299	312	10台	6,640台	62本	267.9kg	389箱
愛知県	2,665	2,806	342台	14,139台	427本	41,938.2kg	531箱
名古屋市	1,728	1,826	417台	9,771台	592本	45,378.2kg	459箱
豊橋市	296	323	3台	1,258台	59本	356.3kg	53箱
岡崎市	208	232	28台	1,018台	15本	330.2kg	82箱
一宮市	171	191	0台	550台	4本	9.2kg	13箱
岐阜県	1,483	1,560	116台	5,315台	91本	4,028.3kg	231箱
岐阜市	340	371	47台	1,003台	64本	54.9kg	35箱
静岡県	1,983	2,074	119台	10,150台	351本	46,589.9kg	689箱
静岡市	577	626	48台	2,454台	81本	9,376.6kg	68箱
浜松市	552	587	946台	9,921台	169本	34,084.3kg	166箱
三重県	1,220	1,326	385台	13,760台	585本	123,090.7kg	475箱
合計:	11,522	12,234	2,461台	75,979台	2,500本	305,504.8kg	3,191箱

(表一4)届出区域別 受入状況 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。)

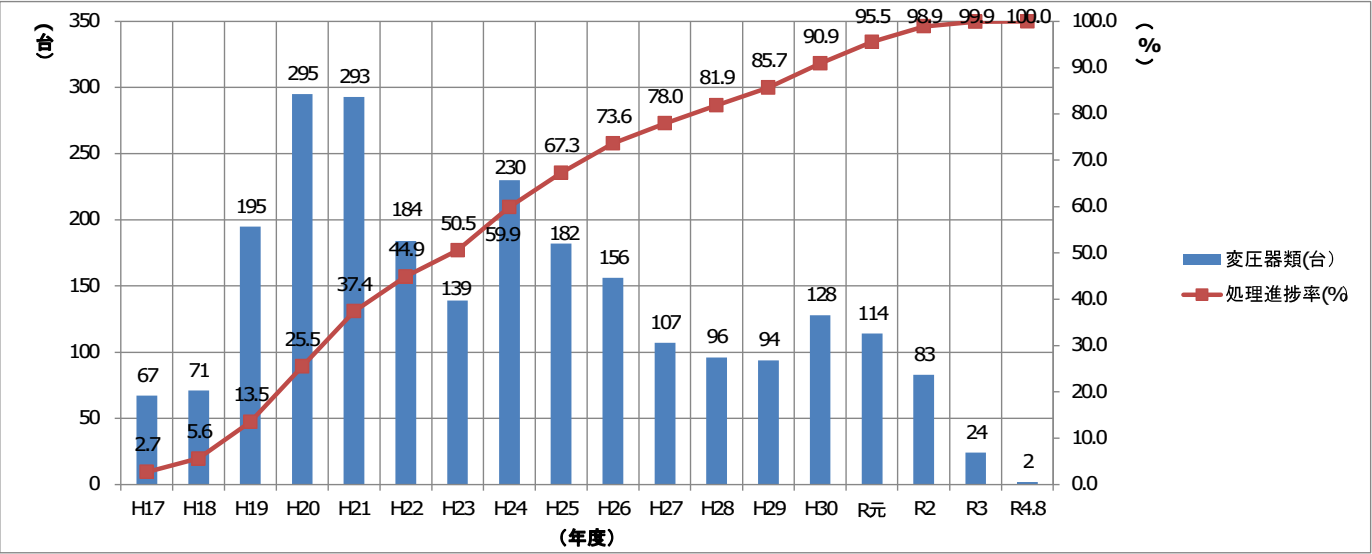
区域名称	保管者数	事業場数	変圧器台数	コンデンサー台数	廃PCB		保管容器
豊田市	298	311	10台	6,639台	62本	267.9kg	389箱
愛知県	2,657	2,798	342台	14,130台	419本	41,595.1kg	530箱
名古屋市	1,712	1,809	417台	9,746台	590本	45,378.1kg	454箱
豊橋市	296	323	3台	1,258台	59本	356.3kg	53箱
岡崎市	208	232	28台	1,018台	15本	330.2kg	82箱
一宮市	170	190	0台	549台	4本	9.2kg	13箱
岐阜県	1,479	1,556	115台	5,310台	91本	4,028.3kg	228箱
岐阜市	338	369	47台	983台	64本	54.9kg	35箱
静岡県	1,974	2,064	119台	10,130台	350本	46,589.9kg	687箱
静岡市	577	625	48台	2,453台	81本	9,376.6kg	68箱
浜松市	552	587	946台	9,916台	169本	34,084.3kg	166箱
三重県	1,213	1,319	385台	13,752台	580本	123,090.7kg	475箱
合計:	11,474	12,183	2,460台	75,884台	2,484本	305,161.6kg	3,180箱

(表一5)届出区域別 進捗率 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。)

区域名称	保管者	事業場	変圧器	コンデンサー	廃PCB		保管容器
豊田市	99.7%	99.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
愛知県	99.7%	99.7%	100.0%	99.9%	98.1%	99.2%	99.8%
名古屋市	99.1%	99.1%	100.0%	99.7%	99.7%	100.0%	98.9%
豊橋市	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
岡崎市	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
一宮市	99.4%	99.5%	100.0%	99.8%	100.0%	100.0%	100.0%
岐阜県	99.7%	99.7%	99.1%	99.9%	100.0%	100.0%	98.7%
岐阜市	99.4%	99.5%	100.0%	98.0%	100.0%	100.0%	100.0%
静岡県	99.5%	99.5%	100.0%	99.8%	99.7%	100.0%	99.7%
静岡市	100.0%	99.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
浜松市	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%
三重県	99.4%	99.5%	100.0%	99.9%	99.1%	100.0%	100.0%
合計:	99.6%	99.6%	100.0%	99.9%	99.4%	99.9%	99.7%

(グラフー1)東海4県内のPCB廃棄物処理進捗状況(令和4年度8月現在)

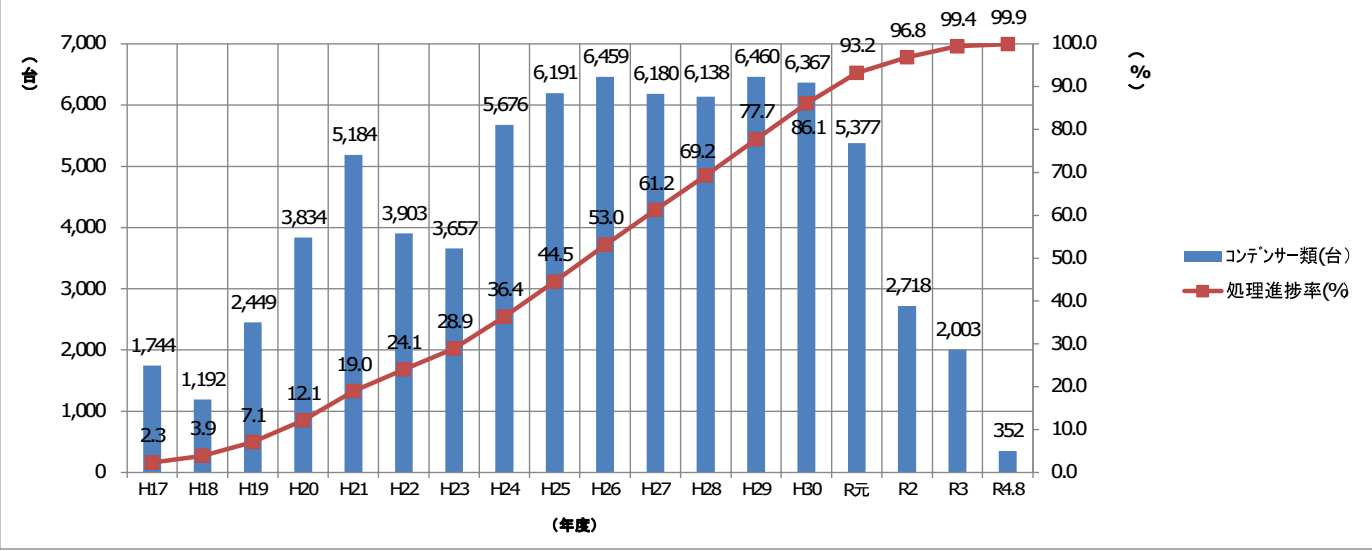
【変圧器類】 受入ベース



年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4.8	合計
変圧器類(台)	67	71	195	295	293	184	139	230	182	156	107	96	94	128	114	83	24	2	2,460
処理進捗率(%)	2.7	5.6	13.5	25.5	37.4	44.9	50.5	59.9	67.3	73.6	78.0	81.9	85.7	90.9	95.5	98.9	99.9	100.0	

※登録量(分母):令和4年度8月末までのJESCO登録量＝2,461台(地域間移動の車載変圧器は除く。)
※実績量には、地域間移動の車載変圧器は除く。

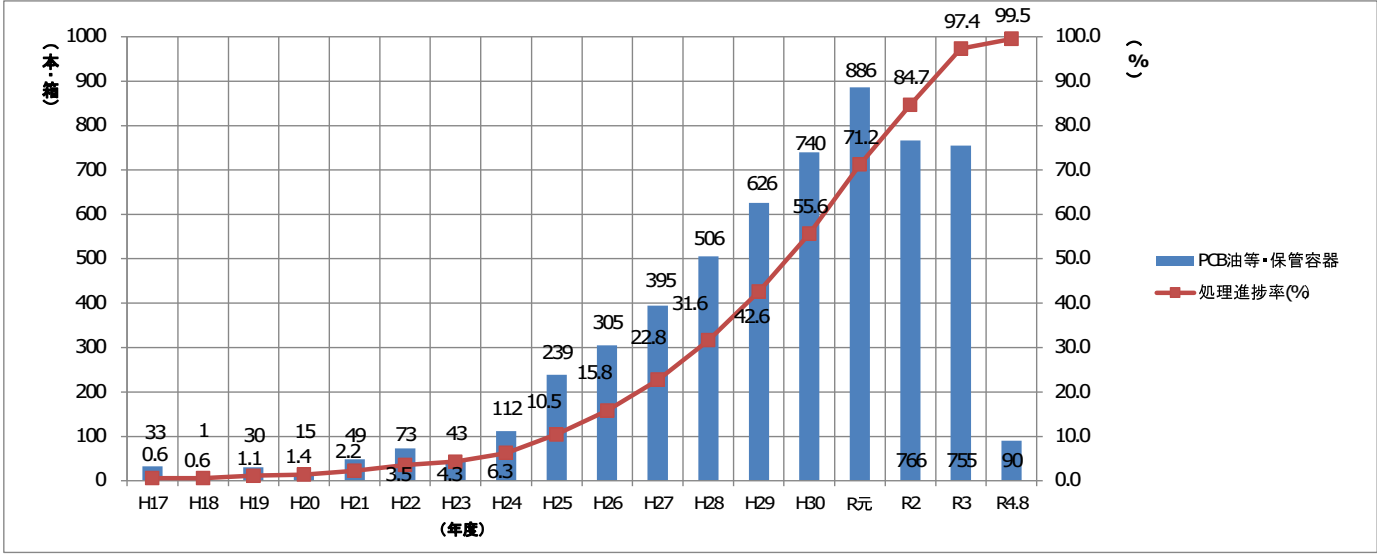
【コンデンサー類受入ベース



年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4.8	合計
コンデンサー類(台)	1,744	1,192	2,449	3,834	5,184	3,903	3,657	5,676	6,191	6,459	6,180	6,138	6,460	6,367	5,377	2,718	2,003	352	75,884
処理進捗率(%)	2.3	3.9	7.1	12.1	19.0	24.1	28.9	36.4	44.5	53.0	61.2	69.2	77.7	86.1	93.2	96.8	99.4	99.9	

※登録量(分母):令和4年度8月末までのJESCO登録量＝75,979台(地域間移動の炭化コンデンサーは除く。)
※実績量には、地域間移動量の炭化コンデンサーは除く。
※大阪事業からのPPコンデンサーは除く。

【PCB油等及び保管容器】 受入ベース



年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4.8	合計
PCB油等・保管容器	33	1	30	15	49	73	43	112	239	305	395	506	626	740	886	766	755	90	5,664
処理進捗率(%)	0.6	0.6	1.1	1.4	2.2	3.5	4.3	6.3	10.5	15.8	22.8	31.6	42.6	55.6	71.2	84.7	97.4	99.5	

※PCB油類には、保管容器を含む。
※登録量(分母): 令4年度8月末までのJESCO登録量＝5,691本・箱(地域間移動の炭化コンデンサーの保管容器は除く。)
※実績量には、地域間移動量の炭化コンデンサーの保管容器は除く。

2 周辺環境への影響の状況

(表-1) 排出源モニタリング

操業開始から令和4年8月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)		令和4年			管理目標値等	単位
				1月	4月	7月		
排気	PCB	1～4系	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01	mg/m ³ N
		5系	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満		
		6系	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満		
	ダイオキシン類	1～4系	0.026(平成18.10)	0.000011	0.0000099	0.0000060	0.1	ng-TEQ/m ³ N
		5系	0.000052(平成18.9)	0.00000057	0.0000021	0.0000050		
		6系	0.00089(令和2.10)	0.0000032	0.000057	0.000053		
	ベンゼン	1～4系	2.2(平成22.10)	0.5未満	0.5未満	0.5未満	50	mg/m ³ N
		3～2系	71(平成19.1)	0.5未満	0.5未満	0.5未満		
排水 (放流口)	PCB	0.0005未満		0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	mg/L
	ダイオキシン類	0.13(平成19.2)		0.010	0.0018	0.0021	5	pg-TEQ/L
騒音	騒音レベル	昼間	69(平成19.1)	65	—	—	70	dB(A)
		夜間	68(平成19.1)	65	—	—	65	
振動	振動レベル	昼間	49(平成21.1)	34	—	—	65	dB
		夜間	50(平成31.1)	31	—	—	65	
悪臭	アセトアルデヒド	0.039(平成20.10)		—	—	—	0.05	ppm
	トルエン	0.9未満		—	—	—	10	ppm
	キシレン	0.1(平成18.9)		—	—	—	1	ppm

(表-2) 周辺環境モニタリング

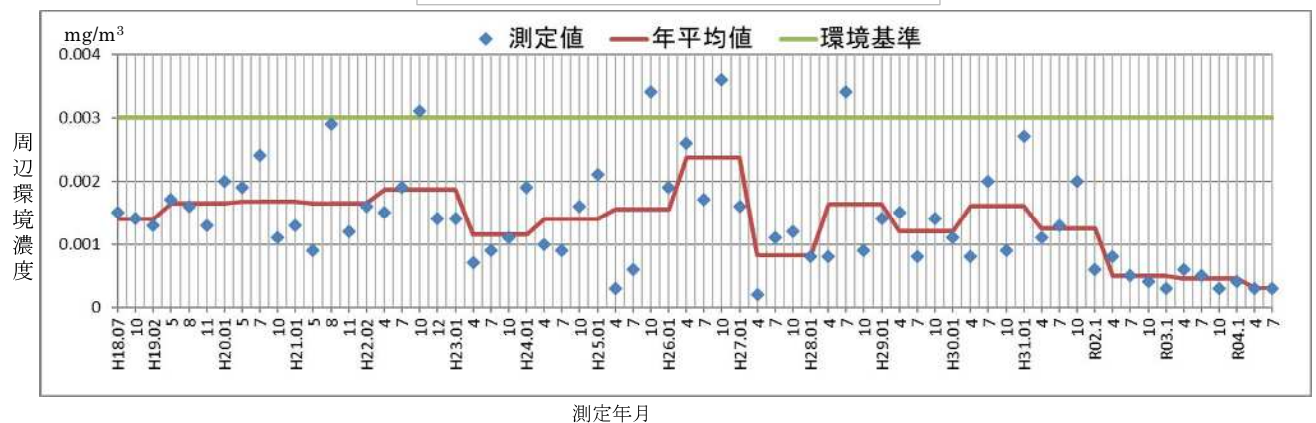
操業開始から令和4年8月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)	令和4年			環境基準値等	単位
			1月	4月	7月		
大気	PCB	0.0000088(令和3.7) [8800pg/m ³]	0.00000041 [410pg/m ³]	0.0000035 [3500pg/m ³]	0.0000011 [1100pg/m ³]	0.0005を超えないこと(注1)	mg/m ³
	ダイオキシン類	0.057(平成20.1)	0.013	0.016	0.013	年平均0.6 (注2)	pg-TEQ/m ³
	ベンゼン	年平均0.0024(平成26年度)	0.0004	0.0003未満	0.0003未満	年平均0.003 (注2)	mg/m ³
土壌	PCB	0.0005未満	—	—	—	検出されないこと(0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	4.0(令和2.10)	—	—	—	1000	pg-TEQ/g
地下水	PCB	0.0005未満	—	0.0005未満	—	検出されないこと(0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	0.075(平成19.2)	—	0.065	—	1.0	pg-TEQ/L

(注1) 評価基準値「PCB等を焼却処分する場合における排ガス中のPCBの暫定排出許容限界について」(昭和47年12月22日付 環境庁大気保全局長通達)で示される環境中のPCB濃度。

(注2) ダイオキシン類及びベンゼンの大気環境基準は、豊田施設の存在する工業専用地域には適用されません。

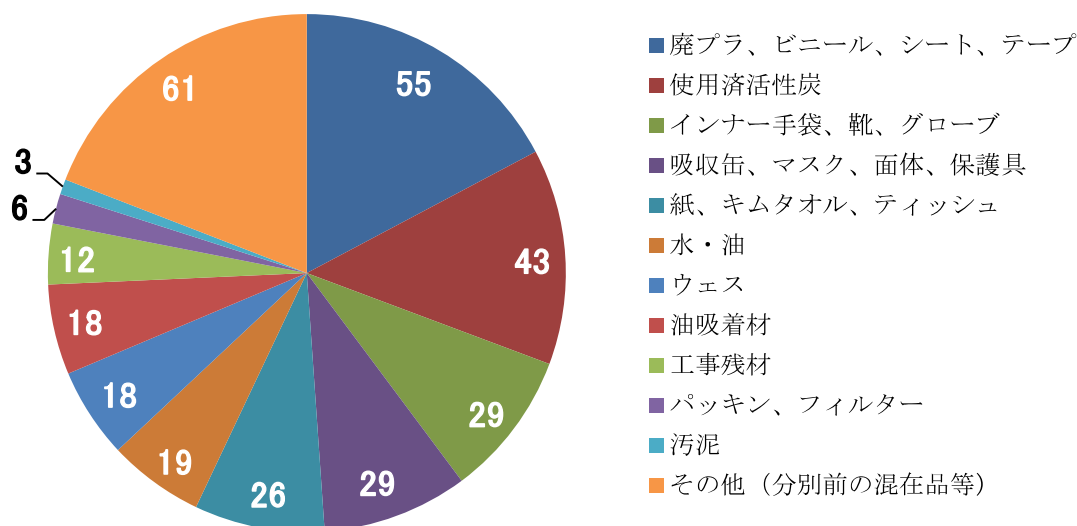
＜参考＞周辺環境中のベンゼン濃度の推移



3 運転廃棄物の保管及び処理の状況

① 運転廃棄物入りドラム缶の保管状況（令和4年8月31日現在）

合計 319 本（内訳は下図の通り）

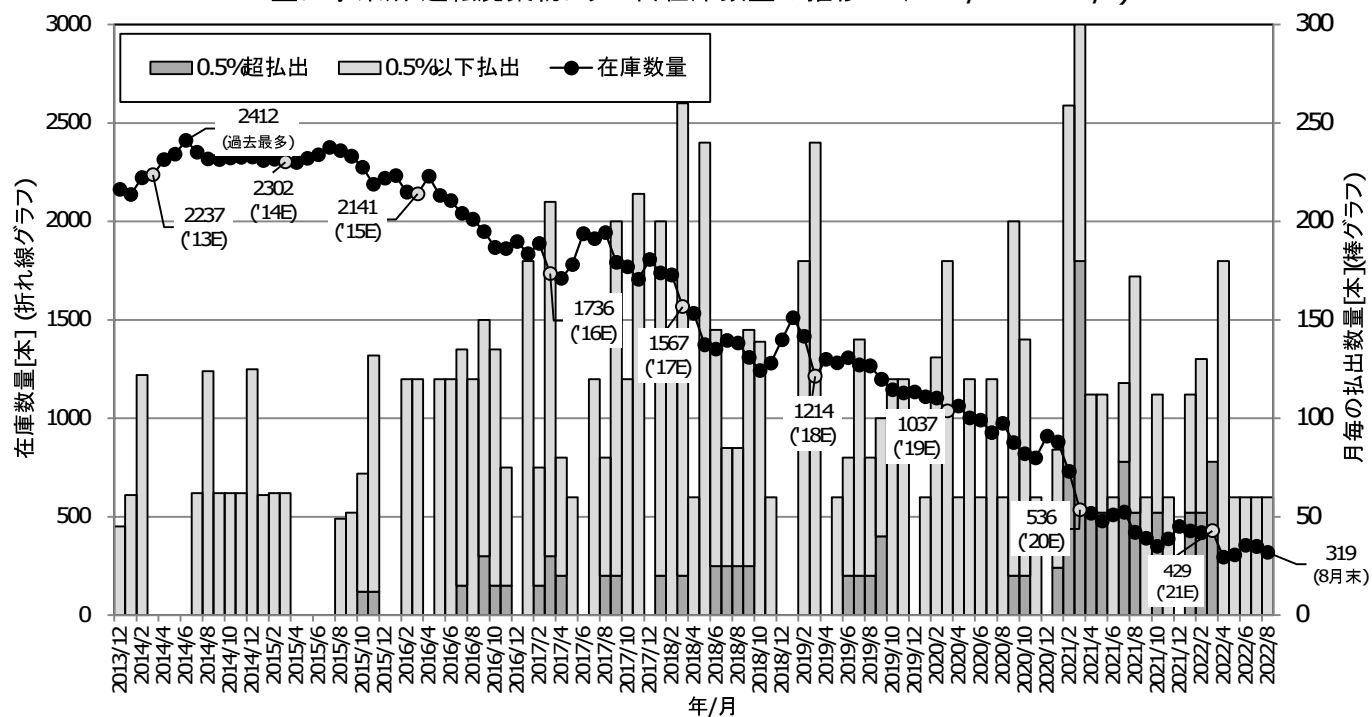


② 運転廃棄物の所内処理及び外部処理の実績（令和4年8月31日現在）

年度	事業所内処理			北九州事業 所処理委託	外部処理（ドラム缶数）	
	防護服	ポリ袋	廃油	高濃度品 （注1）	実証試験	無害化認定業者処理 委託（低濃度品（注1））
平成23年度	14,400 着	640kg	2,643L	—	—	—
平成24年度	15,750 着	700kg	1,743L	—	108 本	—
平成25年度	18,000 着	549kg	373L	—	74 本+約 204 本相当	306 本+約 62 本相当
平成26年度	17,325 着	666kg	526L	—	—	550 本+約 153 本相当
平成27年度	18,000 着	684kg	1,212L	24 本	—	521 本
平成28年度	15,000 着	540kg	584L	120 本	—	1,200 本
平成29年度	19,250 着	875kg	271L	100 本	—	1,354 本
平成30年度	12,850 着	711kg	777L	100 本	—	1,279 本
令和元 年度	13,775 着	905kg	141L	100 本	—	971 本
令和2 年度	8,700 着	665kg	0L	208 本	108 本	1,147 本
令和3 年度	6,800 着	270kg	0L	468 本	—	671 本
令和4 年度	1,625 着	150kg	0L	0 本	—	420 本

（注1）高濃度品：PCB含有量 5,000mg/kg 超、低濃度品：PCB含有量 5,000mg/kg 以下

豊田事業所 運転廃棄物ドラム缶在庫数量の推移 (2013/12~2022/8)



4 収集運搬について

前回の監視委員会以降、令和4年8月末までに発生した収集運搬及び保管時に伴うトラブル事例は以下の通りです。

(1) 収集運搬機器からの漏洩について

豊田PCB処理事業所に受け入れを行なった際に確認された漏洩事例(運搬容器内)は発生しておりません。

(2) 保管中機器からの漏洩について

豊田PCB処理事業所で搬入後、保管中に漏洩が確認された事例は1件でした。

発 生 日	発 生 概 況	状 況
6月23日(木)	保管中漏洩 (滲み)	<p>保管トレイに入れて、保管庫内で保管していた高圧コンデンサー6台を受入検査室に移動し別の保管トレイに積み替え中、1台の高圧コンデンサーから保管トレイにわずかに油が付着しているのを発見、トレイ内の油をふき取りました。(保管トレイ内以外に漏れにじみは有りませんでした。)</p> <p>該当のコンデンサーを確認したところ、明確な漏れにじみ箇所は特定できませんでしたが、漏れにじみが発生したと思われる箇所周辺を補修後、コンデンサー下部をビニールで養生し保管トレイに入れ立体倉庫保管とした。処理再開後に優先投入しました(7月1日)。</p> <p>原因はコンデンサーの底部の一部に劣化が見られ、このあたりより滲みが発生したと思われます。なお、収集運搬事業者による搬出前の漏洩確認時及びJESCOによる受入確認時とも漏れはなかったことを確認しています。</p>

【漏洩状況】

受入検査室で該当の高圧コンデンサーを吊り上げ底部を確認したが明確な漏れにじみ箇所は特定できませんでした。



5 地域とのコミュニケーションについて

地域の皆様へは、JESCOホームページを始め、事業だよりや施設見学等を通じて、積極的な情報公開に努めており、その実績は以下のとおりです。

(1) 施設見学について

①見学の実績

※令和4年度は8月31日現在

	市民関係		行政関係		企業関係		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
令和元年度	0	0	7	111	12	28	19	139
令和2年度	0	0	4	53	3	4	7	57
令和3年度	0	0	1	4	1	3	2	7
令和4年度	0	0	0	0	0	0	0	0

- *新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年3月3日～7月12日まで見学者の受入を中止。
- *その後は見学者の受入を再開したが、新型コロナウイルスの感染拡大や国の緊急事態宣言等の感染防止対策などの影響もあり、見学者の人数は大きく減少した状況が続いています。

②見学に関するアンケートの集計結果（令和元年4月～令和4年8月末まで、見学者203名）

質問1 説明は、わかりやすかったですか？（回答168人）			
	①わかりやすかった	②普通	③わかりにくかった
	91%（153人）	9%（15人）	0%（0人）
質問2 説明者の対応はいかがでしたか？（回答168人）			
	①良い	②普通	③良くない
	92%（155人）	7%（11人）	1%（2人）
質問3 本日の見学会は、参考になる内容でしたか？（回答168人）			
	①参考になる	②わからない	③参考にならない
	100%（168人）	0%（0人）	0%（0人）

(2) 関係自治区への情報提供

①年末年始の挨拶

施設周辺と逢妻男川流域の19自治区を訪問し、年始の挨拶と事業の進捗状況等を説明する。

- ・令和3年度 1月5日～26日に18自治区を訪問し、1自治区は手紙で挨拶しました。
- ・令和4年度 1月に19自治区を訪問し、新年の挨拶を予定しています。

②新任自治区長への挨拶

新たに区長に就任された自治区を訪問し、年度始めの挨拶と事業の概要等を説明する。

- ・令和3年度 6月24日～7月1日に5自治区を訪問し、1自治区は手紙で挨拶しました。
- ・令和4年度 新所長の就任を受け5月19日～28日に19自治区を訪問し挨拶しました。

(3) JESCO地域協議会（平成25年度設置）

- ・目的：周辺自治区への情報発信と意見交換により、リスクコミュニケーションを推進する。
- ・構成：事業所周辺の7自治区
（樹木、三軒屋、広久手町、広久手、本地新田、深田山、土橋の各自治区）
- ・令和3年度 9月24日に新型コロナ感染拡大の影響で、書面送付により開催しました。
- ・令和4年度 10月27日に開催を予定しています。

(4) 豊田PCB廃棄物処理事業だよりの発行（毎月1回）

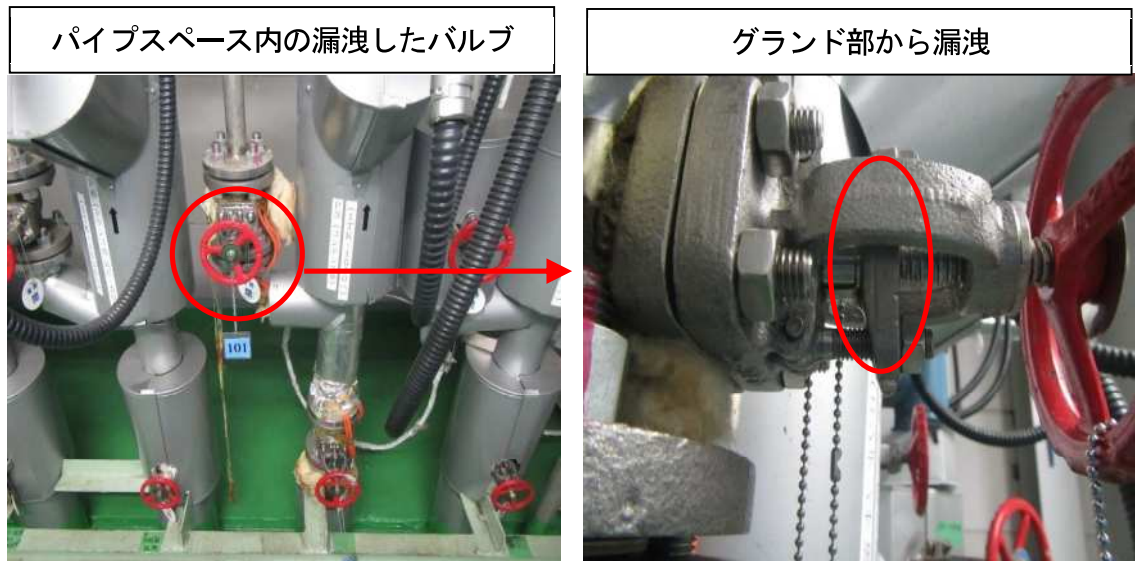
- ・令和3年度 4月の204号～3月の215号まで、1年間に12回発行しました。
- ・令和4年度 4月の216号8月の220号まで、毎月1回発行しています。

6 トラブルの報告

鉍物油配管に設置されているグローブ弁からの漏洩

(1) 概要

7月22日（金）に2階抜油受槽室にあるコンデンサー用抜油受槽と6階液処理エリアにあるコンデンサー油受入槽をつなぐ配管内部を洗浄するため、洗浄溶剤を満たして、浸漬洗浄していたところ、この配管につながる鉍物油ラインに設置されているグローブ弁（以下、バルブという。）のグラント部から油が滴下しているのを確認しました。



漏洩した液の量は2mL程度、PCB濃度は8720mg/kgでした。排ガス中のPCB濃度はオンラインモニター（活性炭吸装置の前で測定）で常時監視しておりますが、漏洩発見時の値は0.7～1.2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ と配管内部洗浄前の測定値と変わっておらず、低い値を維持していることから、屋外への排出はありませんでした。

また、応急対策として、バルブのグラント部ボルトを増し締めを行い漏れを止めた後、配管内の液抜きを行いました。

8月25日（木）にバルブメーカーによる現地調査を実施しました。

なお、漏洩したバルブは、現在バルブメーカーの工場へ搬出し更に詳細な原因調査を実施しております。その調査結果が出ましたら速やかに、調査結果を踏まえた再発防止対策を取りまとめます。

(2) 漏洩バルブの操作状況

このバルブは、平成17年（2005年）の操業開始以降、R4年（2022年）5月25日（水）に開閉操作をするまで、操作したことはなく常時閉の状態でした。

6階コンデンサー受入槽の近くに窒素配管を取り付ける工事を行うために、今年5月25日にこのバルブを初めて開けて、鉍物油でコンデンサー受入槽の近くの配管内部を洗浄したもので、これは工事をする時の作業環境の悪化を防止するために行ったものです。

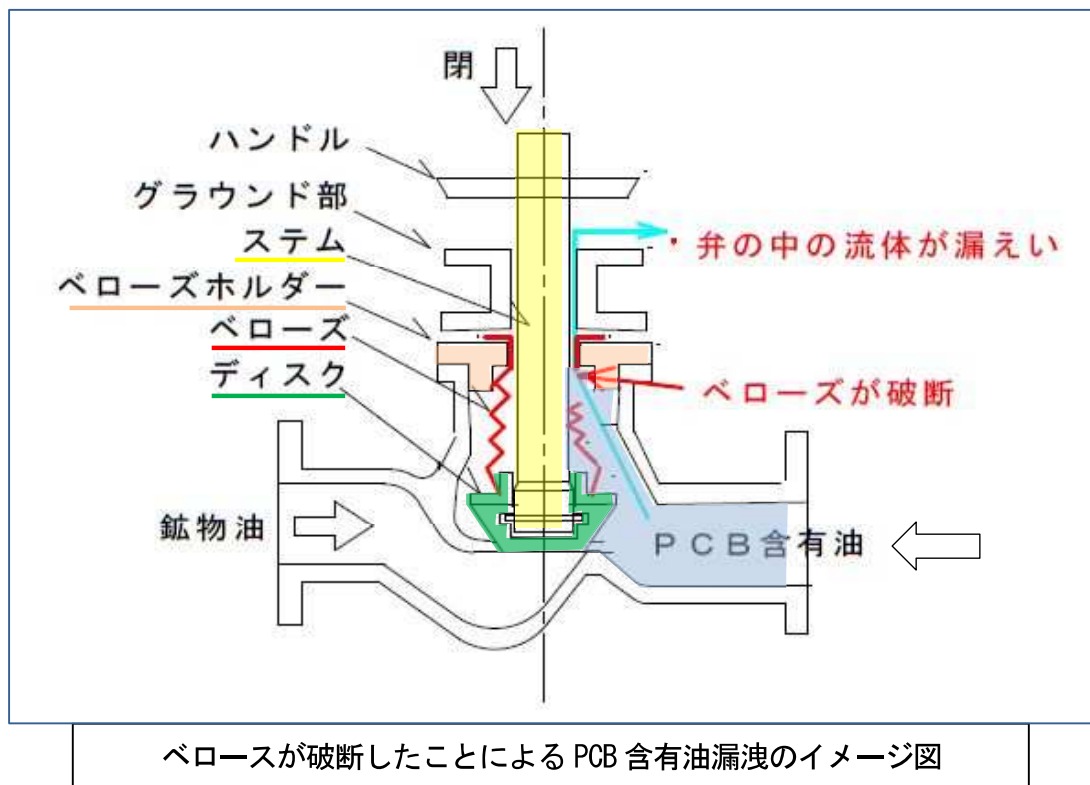
洗浄後はバルブを閉に戻した状態にして作業は終わりました。

(3) 現場での調査結果

漏洩したバルブを配管から取り外し、配管に閉止フランジを取り付けました。

バルブメーカーの担当者により現場でバルブを分解して調査を行いました。その結果について担当者から以下の説明がありました。

- ① ベローズがステムから広がる方向に大きく破断している。
- ② どこかが固着して、ハンドルを回した際にステムの回転とともにベローズがねじれ破断に至ったと推測される。
- ③ 分解したバルブを工場に持ち帰り詳細な調査を行いたい。その結果を報告する。

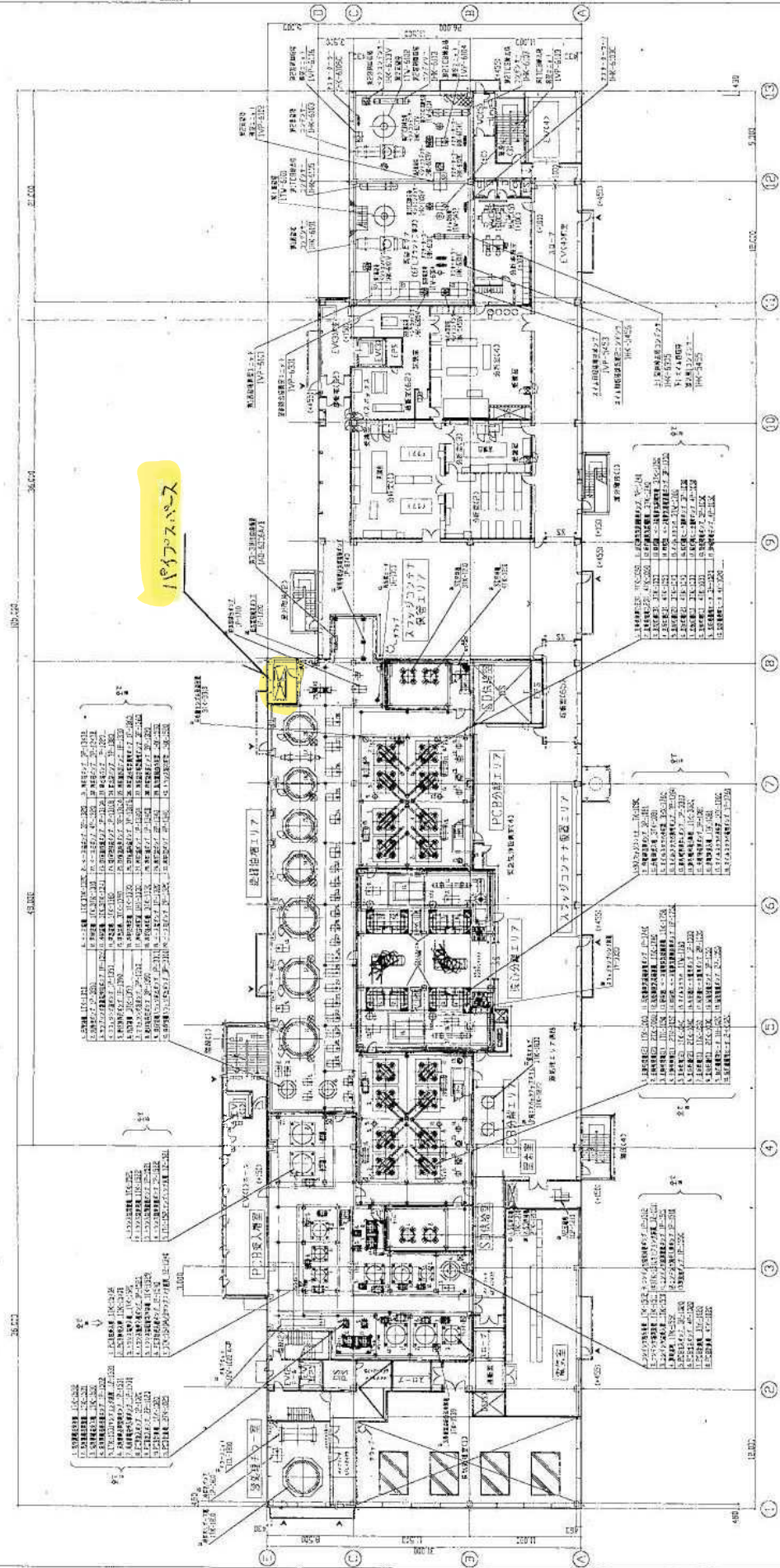


(4) 現状での対応

漏洩が生じた7月22日に実施していた配管内部の洗浄は、来年度実施を計画しているコンデンサー自動解体ラインの解体撤去に先立ち行っているものです。コンデンサー自動解体ラインの配管内部には高濃度PCBが残油として残っていることが推測されますので、解体撤去工事の際の作業環境悪化を防ぐためにあらかじめ洗浄しているものです。

配管内部の洗浄は今年7月から別添2の①から⑨の各系統順に行っており、③系統の洗浄時に漏洩が確認されたものです。

今回漏洩したバルブが長期間（2005年から2022年まで）にわたって開閉操作をしていなかったものであることから、漏洩原因の確定には至っていないものの、長期間操作していないバルブを操作した後は、漏洩のないことの確認と、その後の洗浄実施期間中の重点監視を実施しており、これまでに今回以外の漏洩はありません。



处理棟

管理棟

